

【件名】 令和 6 年度中野区子どもと子育て家庭の実態調査の実施結果について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

1 調査の目的

中野区在住の子育て家庭の保護者及び子どもに対してアンケート調査を行い、子どもと子育て家庭の生活実態を把握・分析する。

2 調査概要

（1）調査期間

令和 6 年 9 月 5 日～9 月 26 日

（2）調査対象

○ 0 歳～8 歳（小学校 3 年生）までの子どもの保護者

○ 9 歳（小学校 4 年生）～14 歳（中学校 3 年生）の児童・生徒本人とその保護者

（3）調査方法、調査件数及び有効回答数

郵送による送付、郵送及びウェブによる回答

（4）回収状況

	調査件数	有効回答数（回答率）
子どもの保護者	18,750 件	7,775 件（41.5%）
児童・生徒	7,500 件	1,821 件（24.3%）

3 調査結果

別添「令和 6 年度中野区子どもと子育て家庭の実態調査報告書【概要版】」のとおり。

4 今後の予定

本調査結果は、子どもの貧困対策などの区の施策の検討の基礎資料として活用する。

令和6年度中野区子どもと子育て家庭の実態調査

報告書【概要版】

(1) 調査対象	令和6年7月1日時点において0歳から14歳（中学3年生）にあたる就学前児童、小学生及び中学生の保護者18,750世帯。 小学4～6年生の児童及び中学1～3年生の生徒7,500人。
(2) 調査方法	郵送配布、郵送・インターネット回収
(3) 調査期間	令和6年9月5日（木）～9月26日（木）
(4) 回答数	保護者：7,775件（41.5%）、子ども：1,821件（24.3%）

調査対象詳細					親子マッチング 件数／対象数
	保護者		子ども		
	対象数	回収数（率）	対象数	回収数（率）	件数（率）
未就学児	7,500	3,615(48.2%)			
小学校低学年(小学生①)	3,750	1,661(44.3%)			
小学校高学年(小学生②)	3,750	1,249(33.3%)	3,750	910(24.3%)	865(23.1%)
中学生	3,750	1,250(33.3%)	3,750	911(24.3%)	877(23.4%)
合 計	18,750	7,775(41.5%)	7,500	1,821(24.3%)	

報告書の見方

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。
- (4) 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。
- (5) クロス集計において、回答が0件（0.0%）の場合、グラフ中で省略している場合がある。
- (6) クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。また、分析軸となる項目の回答者数が少ない場合、グラフ化していない場合がある。
- (7) クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている。

令和7年2月
中野区

生活困難の分類方法

生活困難度は、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の3つの要素から分類し、2つ以上の要素にあてはまる場合（困窮層）、いずれか1つにあてはまる場合（周辺層）、いずれの要素にも該当しない場合（一般層）としている。

①低所得
厚生労働省「令和5年度国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 世帯所得の中央値（405万円）÷√平均世帯人数（2.23）×50%＝135.6万円

②家計の逼迫
経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1項目以上該当
1 電話料金（携帯・スマートフォン含む） 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料を買えないこと 7 家族が必要とする衣類を買えないこと

③子どもの体験や所有物の欠如
経済的な理由で、子どもの体験や所有物などに関する16項目のうち、3項目以上欠如している
1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 山や川など自然豊かな場所に行く 4 キャンプやバーベキューに行く 5 スポーツ観戦や劇場に行く 6 遊園地やテーマパークに行く 7 毎月お小遣いを渡す 8 毎年新しい洋服・靴を買う 9 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる 10 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう） 11 お誕生日のお祝いをする 12 1年に1回くらい家族旅行に行く 13 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 14 子どもの年齢に合った本 15 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ 16 子どもが自宅で宿題をすることができる場所

生活困難層の割合

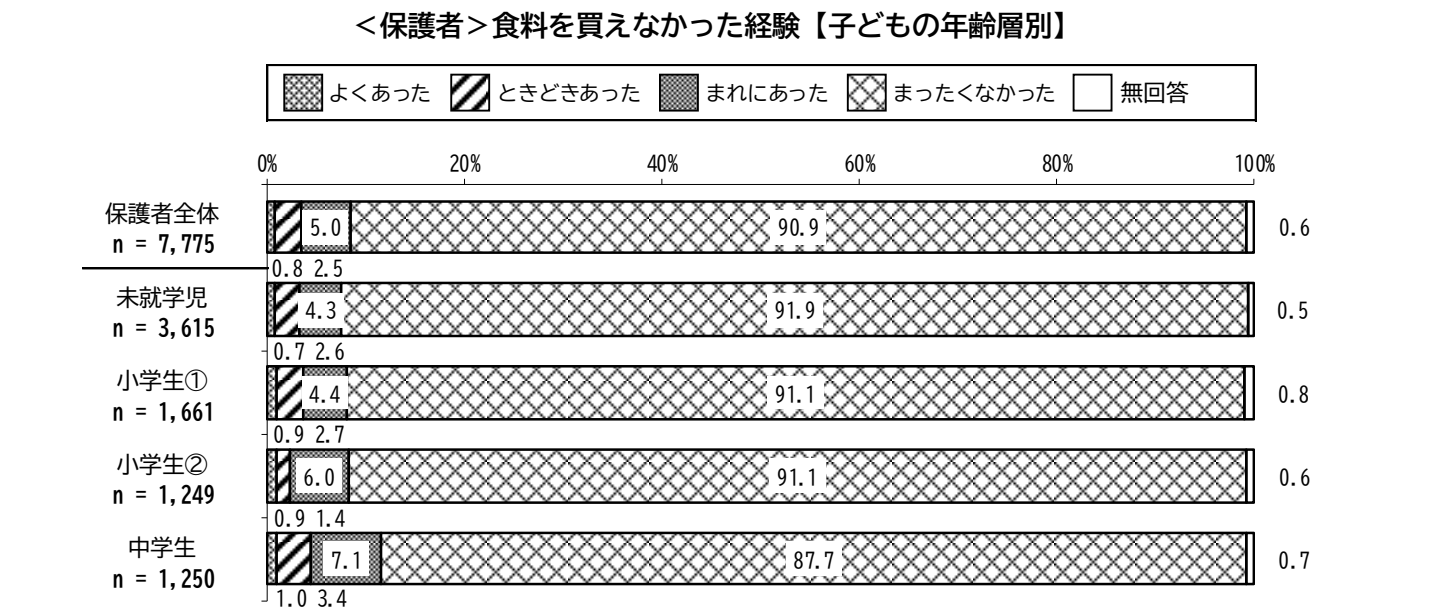
		未就学児 保護者	小学生① 保護者	小学生②		中学生	
				保護者	子ども	保護者	子ども
生活困難層※		11.2%	10.9%	11.4%	11.2%	14.3%	14.4%
	困窮層	3.2%	3.4%	2.5%	2.8%	5.5%	5.8%
	周辺層	8.0%	7.4%	8.9%	8.4%	8.8%	8.6%
一般層		88.8%	89.1%	88.6%	88.8%	85.7%	85.6%

※ 生活困難層の割合は「困窮層」と「周辺層」の人数を加算後、算出したため、構成比の合計とは一致しない場合がある。

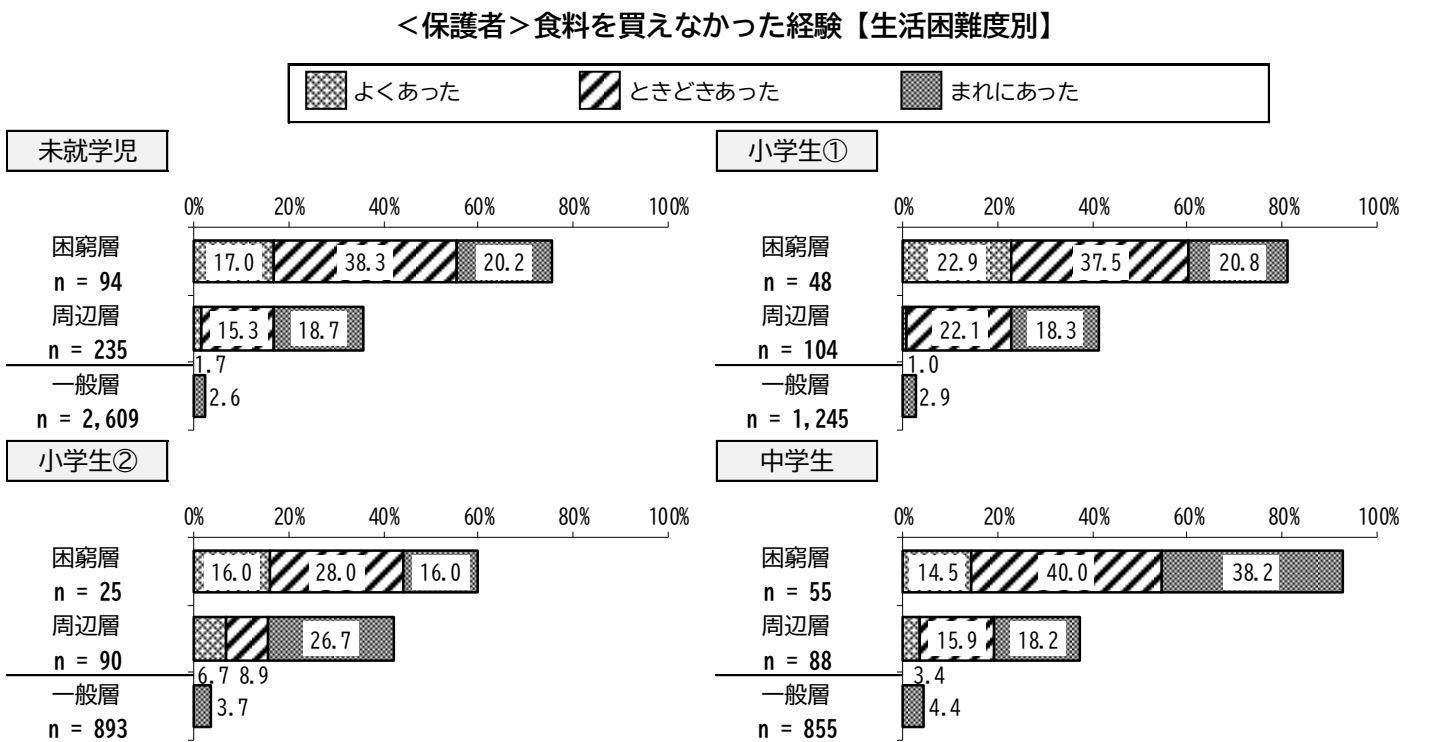
1. 生活困窮の状況

(1) 食料を買えなかった経験

保護者全体では「まったくなかった」が90.9%となっている。一方、「よくあった」が0.8%、「ときどきあった」が2.5%、「まれにあった」が5.0%となっている。



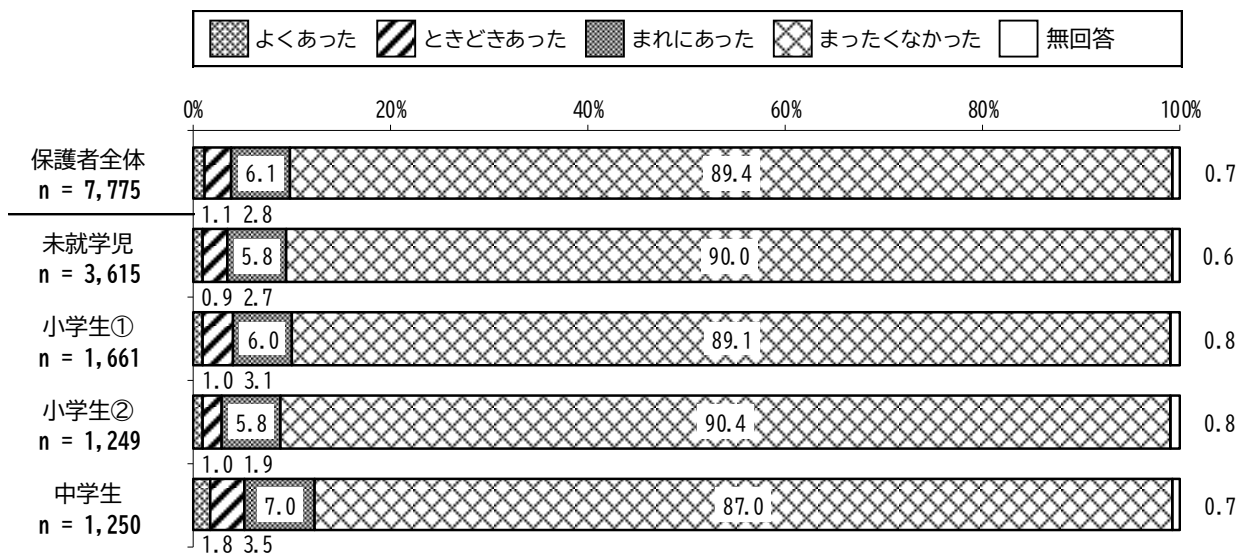
「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の回答を〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」及び「まれにあった」を合計した割合は、すべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔中学生〕の【困窮層】が92.7%と、【周辺層】(37.5%)よりも55.2ポイント高くなっている。



(2) 衣類を買えなかった経験

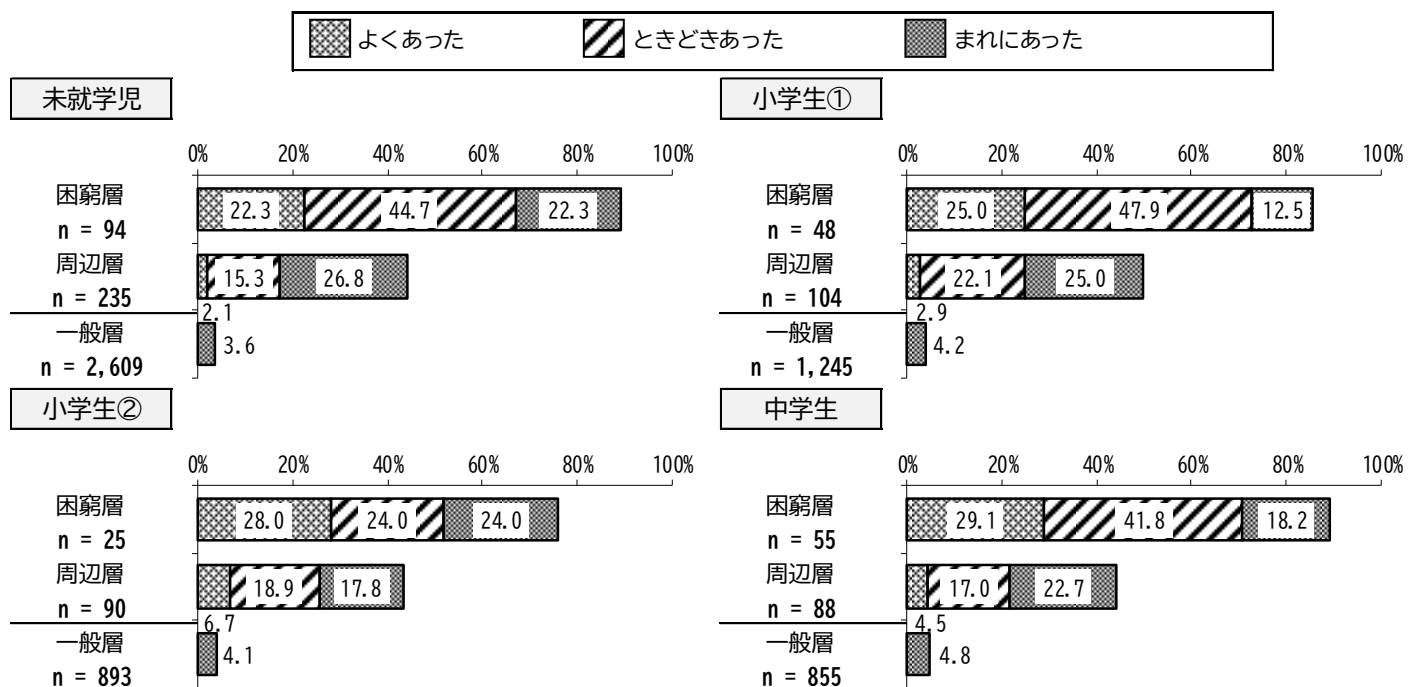
保護者全体では「まったくなかった」が89.4%となっている。一方、「よくあった」が1.1%、「ときどきあった」が2.8%、「まれにあった」が6.1%となっている。

<保護者>衣類を買えなかった経験【子どもの年齢層別】



「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の回答を〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」及び「まれにあった」を合計した割合は、すべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に、〔未就学児〕の【困窮層】が89.3%と、【周辺層】(44.2%)よりも45.1ポイント、〔中学生〕の【困窮層】が89.1%と、【周辺層】(44.2%)よりも44.9ポイント高くなっている。

<保護者>衣類を買えなかった経験【生活困難度別】



(3) 所有物の欠如

項目ごとに「ある」「ない（ほしい）」「ない（いらない）」をたずねた。回答から「欲しいが、持っていない」割合を算出（＝「ない（ほしい）」人数／（「ある」人数＋「ない（ほしい）」人数）×100）した。

※例）小学生の「A 自分だけの本」は、「ない（ほしい）」55人／（「ある」746人＋「ない（ほしい）」55人）×100＝6.9％となる。

〔小学生〕では〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕が57.8％で最も高く、次いで〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕が36.0％、〔N 携帯電話、スマートフォン〕が28.3％、〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕が26.1％、〔F 自分専用の勉強机〕が24.5％と続いている。

生活困難度別にみると、すべての項目で【困窮層】が【周辺層】、【一般層】に比べ、高くなっている。特に〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕は【困窮層】が82.4％、〔I たいていの友だちが持っているおもちゃ〕は【困窮層】が42.9％と他の区分に比べ、高くなっている。

〔中学生〕では〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕が28.3％で最も高く、次いで〔B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）〕が24.5％、〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕が19.2％、〔F 自分専用の勉強机〕が12.1％と続いている。

生活困難度別にみると、〔O 携帯音楽プレーヤーなど〕は【困窮層】が50.0％、【周辺層】が41.7％と【一般層】（27.5％）に比べ、高くなっている。〔C（自宅で）インターネットにつながるパソコン〕は【困窮層】が35.5％と他の区分に比べ、高くなっている。

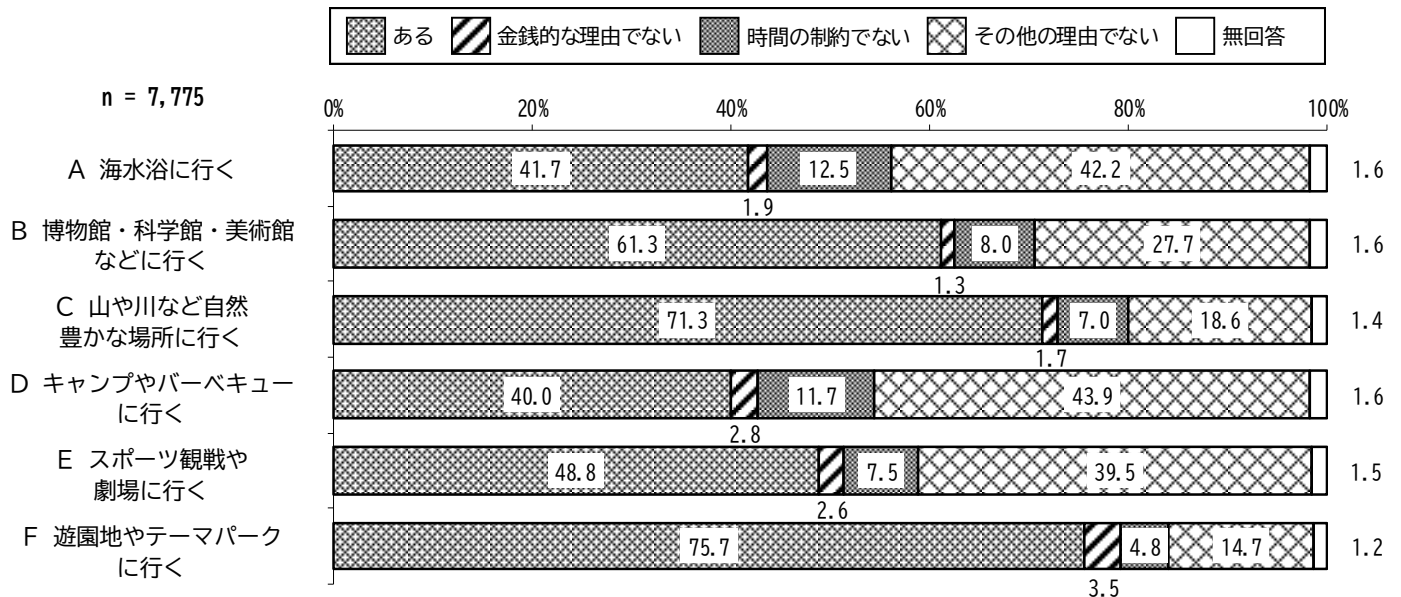
<子ども>子どもの所有物の欠如（「欲しいが、持っていない」割合）【生活困難度別】

区分 n	小学生				中学生			
	全体 (910)	困窮層 (19)	周辺層 (58)	一般層 (610)	全体 (911)	困窮層 (40)	周辺層 (59)	一般層 (587)
A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）	6.9%	23.1%	8.9%	6.4%	4.4%	12.1%	5.8%	4.0%
B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合もふくみます）	36.0%	82.4%	61.5%	31.1%	24.5%	39.4%	33.9%	22.9%
C（自宅で）インターネットにつながるパソコン	26.1%	53.8%	32.6%	25.7%	19.2%	35.5%	23.5%	16.7%
D（自宅で）インターネットにつなげる環境（有線、無線(Wi-Fiなどをふくむ)）	3.5%	23.5%	3.5%	2.7%	2.0%	2.6%	3.4%	1.7%
E 自宅で宿題をすることができる場所	4.2%	26.3%	16.7%	2.2%	4.3%	10.5%	5.3%	3.6%
F 自分専用の勉強机	24.5%	47.1%	42.9%	22.8%	12.1%	24.3%	17.9%	11.3%
G スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）	4.6%	26.7%	7.5%	3.6%	3.8%	18.5%	4.5%	2.2%
H ゲーム機	9.8%	25.0%	16.4%	9.1%	9.0%	13.9%	16.4%	7.6%
I たいていの友だちが持っているおもちゃ	10.7%	42.9%	8.9%	9.5%	7.2%	23.1%	11.9%	5.8%
J 自転車	3.6%	23.5%	9.4%	2.9%	5.7%	15.8%	10.0%	4.6%
K おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい	11.3%	38.9%	30.2%	9.9%	7.2%	21.6%	7.0%	5.5%
L 友だちが着ているのと同じような服	6.7%	27.3%	10.5%	6.1%	6.9%	7.4%	12.8%	6.2%
M 2足以上のサイズのあった靴	4.9%	33.3%	9.8%	3.2%	4.4%	13.9%	9.1%	3.6%
N 携帯電話、スマートフォン	28.3%	41.2%	26.8%	27.1%	5.2%	10.3%	8.6%	4.3%
O 携帯音楽プレーヤーなど	57.8%	78.6%	53.6%	56.7%	28.3%	50.0%	41.7%	27.5%

(4) 子どもの体験への支出

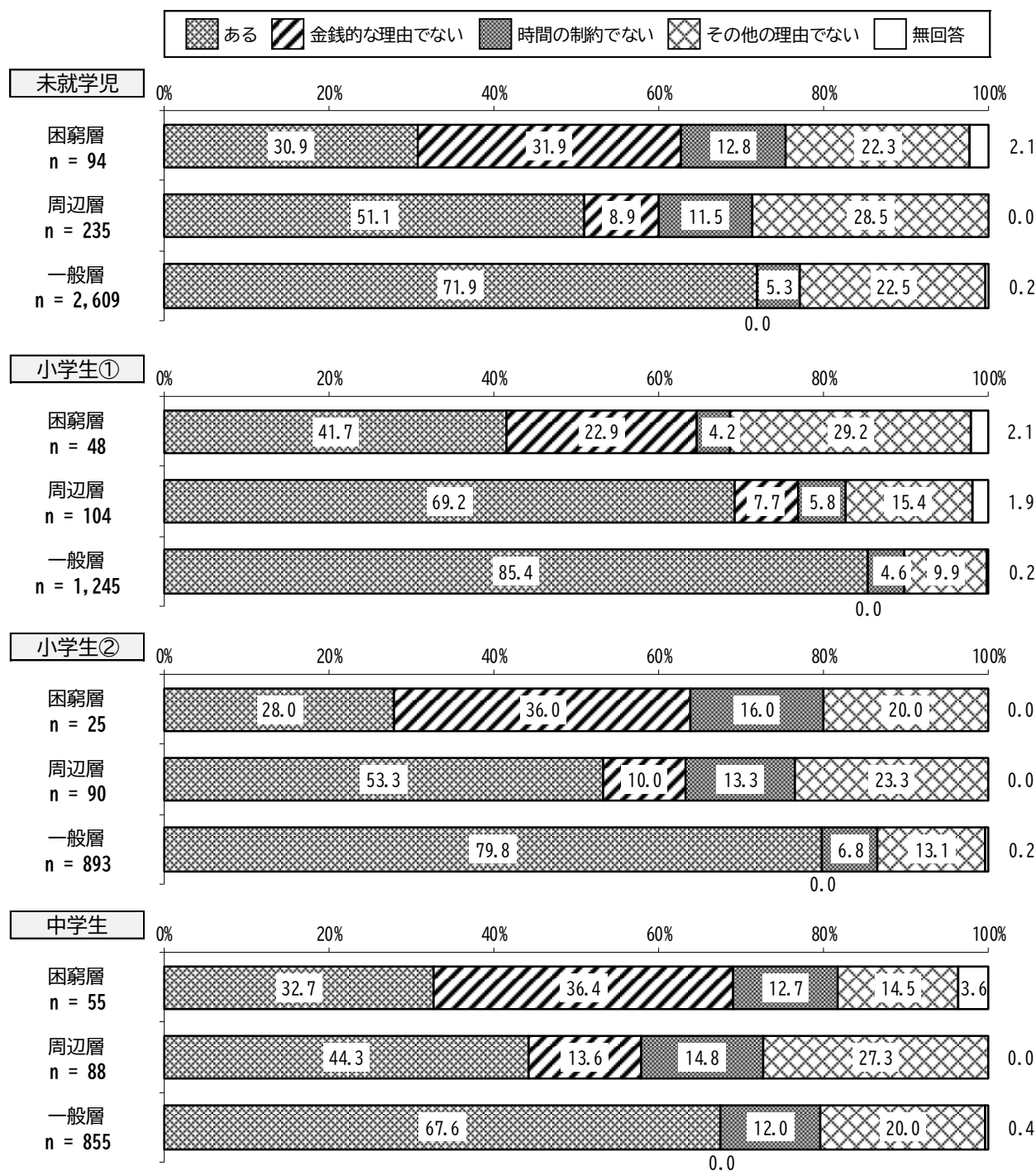
全体で「ある」は、[F 遊園地やテーマパークに行く] が75.7%で最も高く、次いで[C 山や川など自然豊かな場所に行く] が71.3%、[B 博物館・科学館・美術館などに行く] が61.3%となっている。一方、「金銭的な理由でない」は、[F 遊園地やテーマパークに行く] が3.5%、[D キャンプやバーベキューに行く] が2.8%、[E スポーツ観戦や劇場に行く] が2.6%となっている。

<保護者全体>子どもの体験への支出



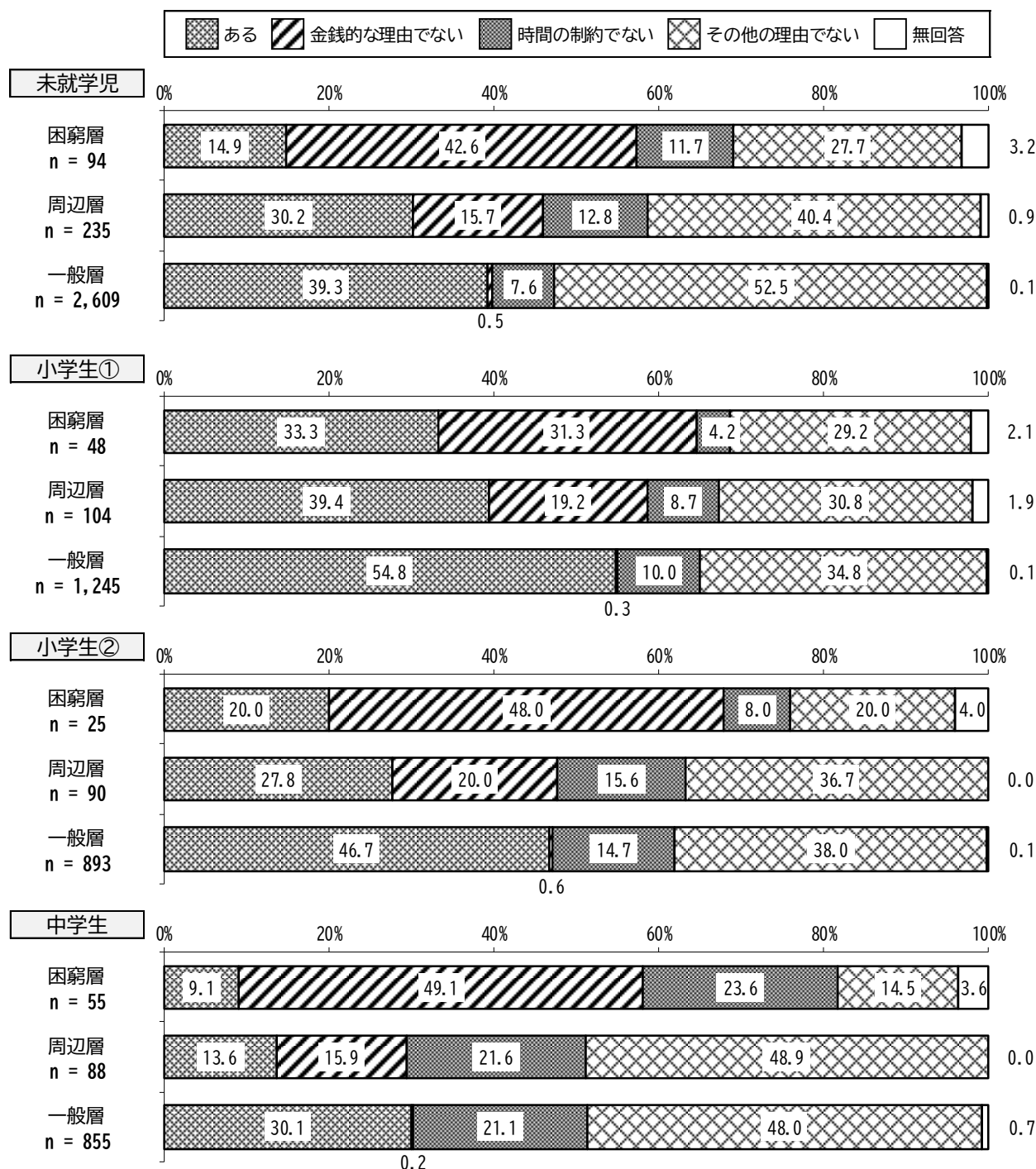
〔山や川など自然豊かな場所に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔小学生②〕の【困窮層】が36.0%と、【周辺層】（10.0%）よりも26.0ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもの体験への支出〔山や川など自然豊かな場所に行く〕【生活困難度別】



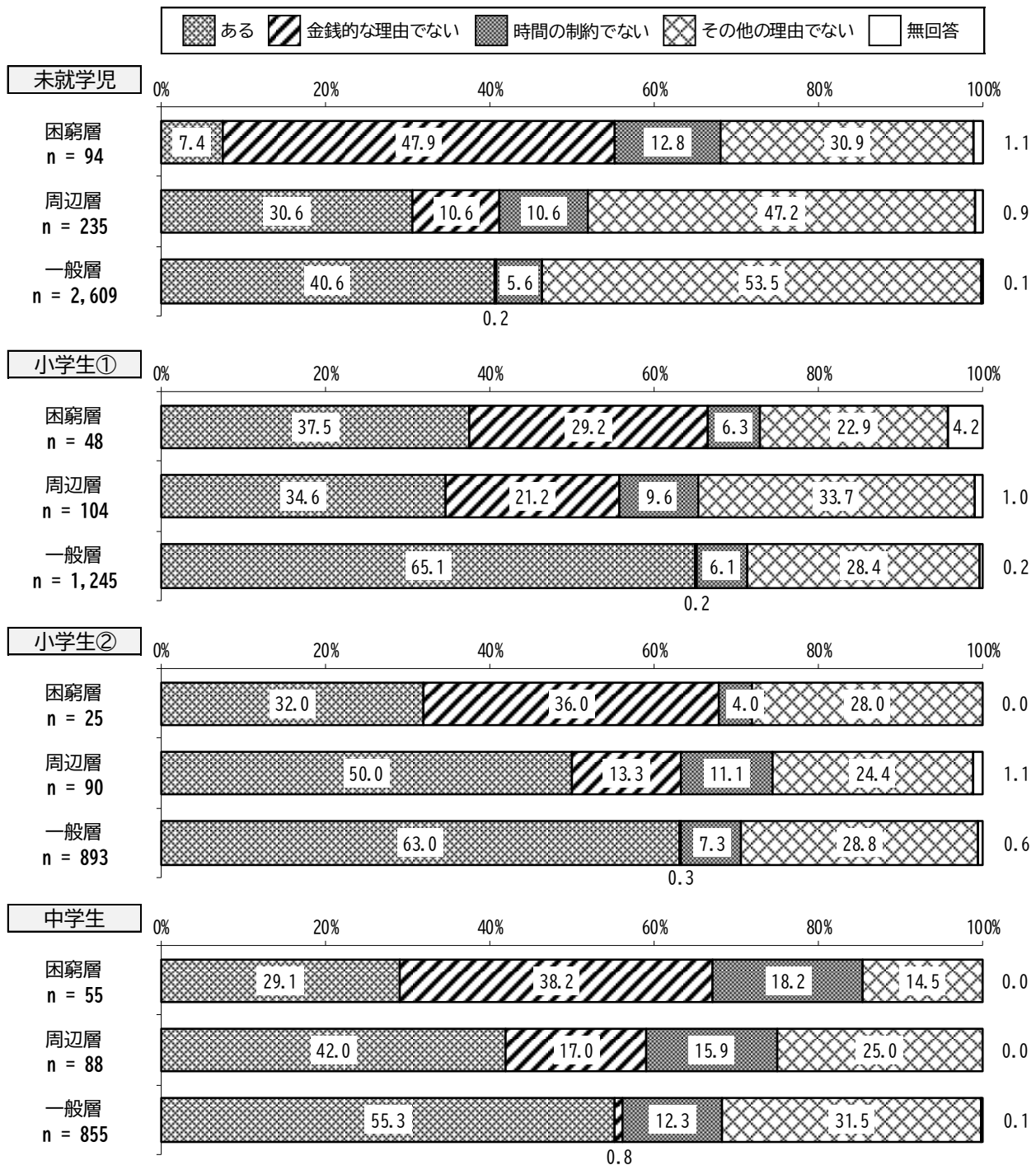
〔キャンプやバーベキューに行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔中学生〕の【困窮層】が49.1%と、【周辺層】（15.9%）よりも33.2ポイント高くなっている。

<保護者>子どもの体験への支出〔キャンプやバーベキューに行く〕【生活困難度別】



〔スポーツ観戦や劇場に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「金銭的な理由でない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔未就学児〕の【困窮層】が47.9%と、【周辺層】（10.6%）よりも37.3ポイント高くなっている。

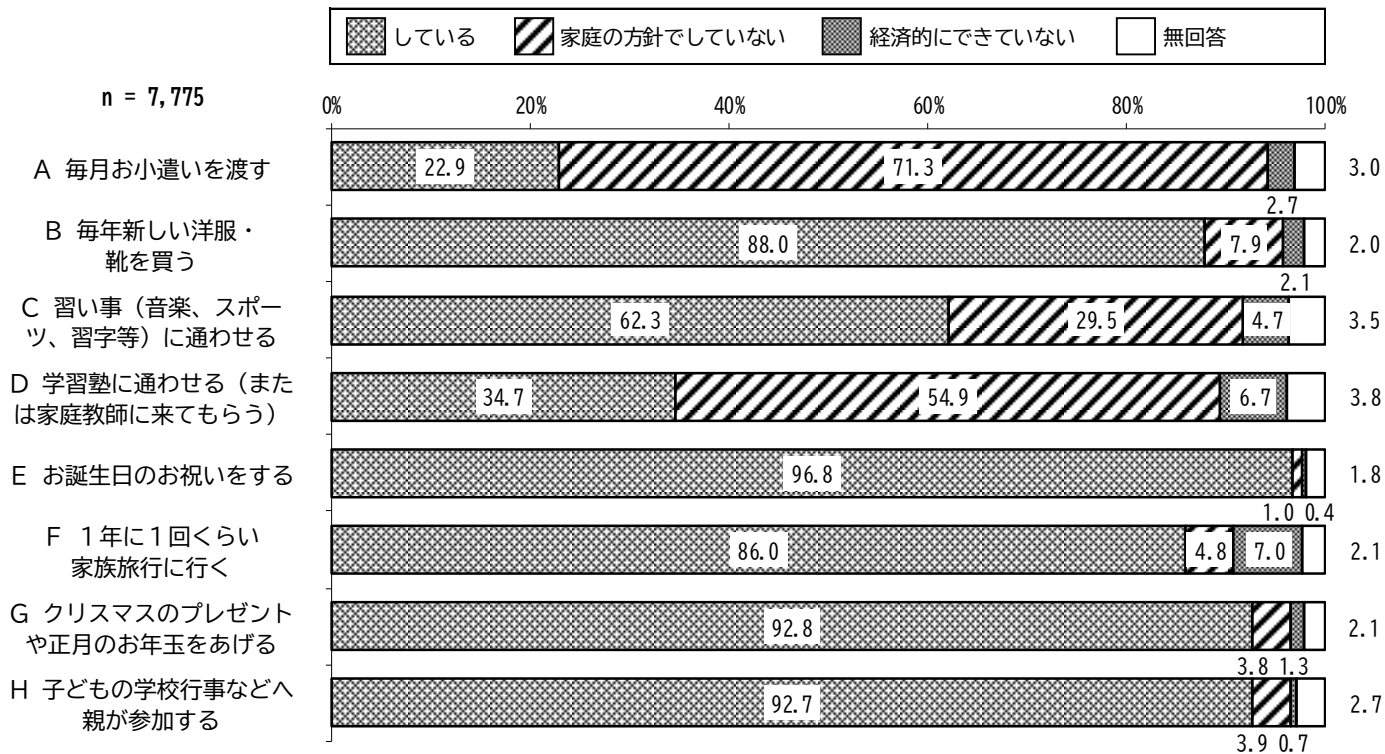
＜保護者＞子どもの体験への支出〔スポーツ観戦や劇場に行く〕【生活困難度別】



(5) 子どもへの支出

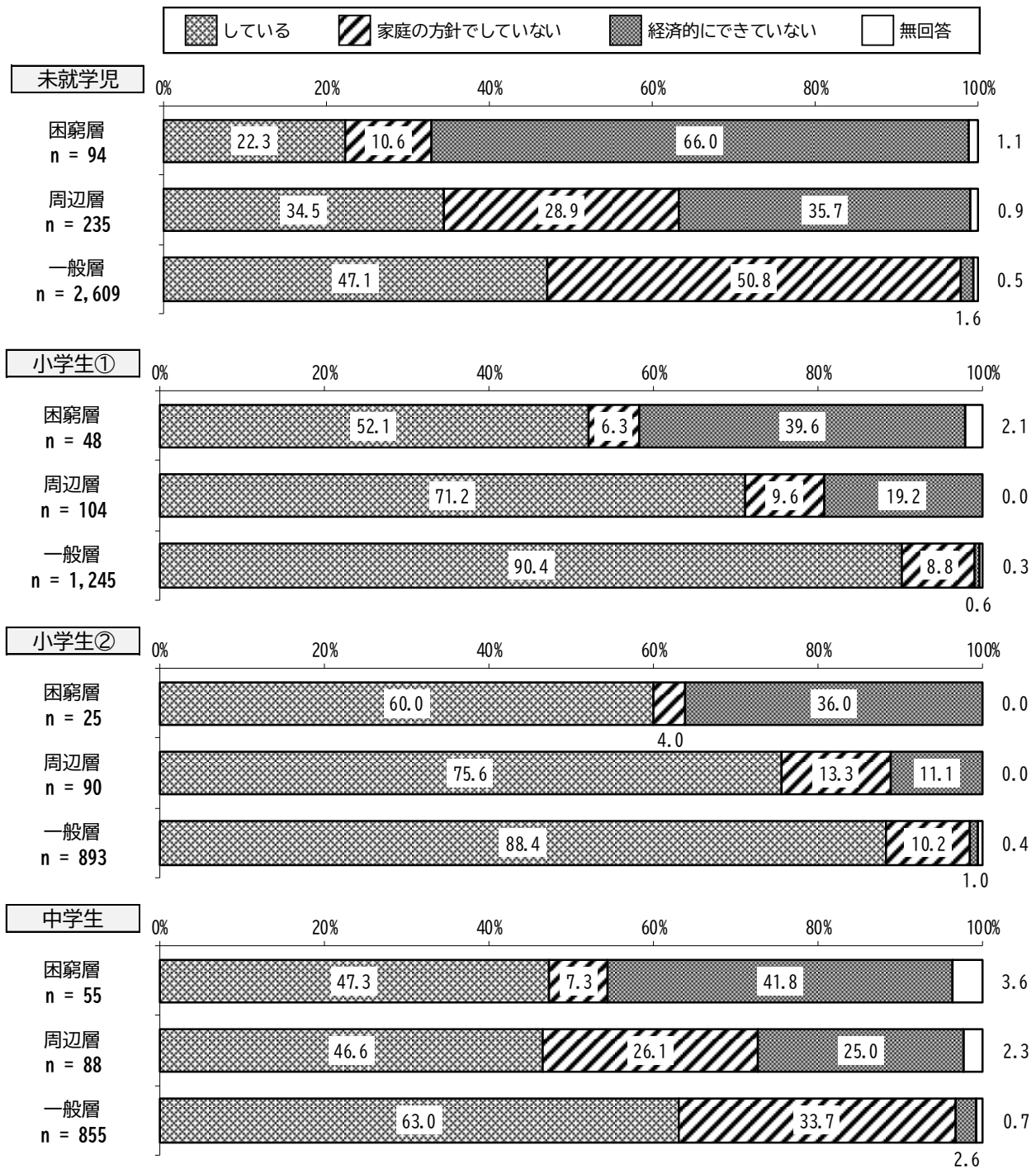
全体で「している」は、[E お誕生日のお祝いをする] が96.8%で最も高く、次いで[G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる] が92.8%、[H 子どもの学校行事などへ親が参加する] が92.7%となっている。一方、「経済的にできていない」は、[F 1年に1回くらい家族旅行に行く] が7.0%、[D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）] が6.7%となっている。

<保護者全体>子どもへの支出



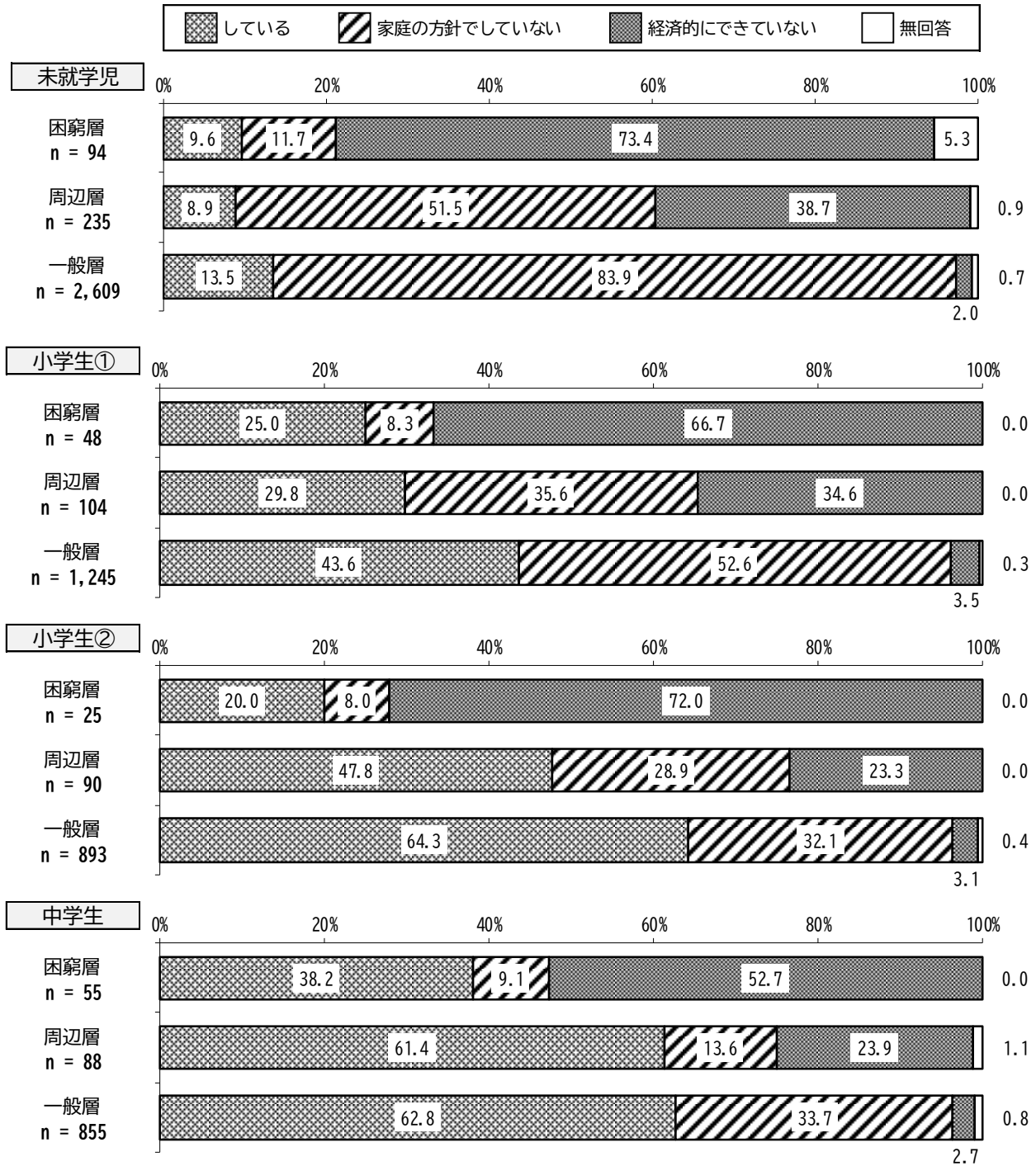
〔習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔未就学児〕の【困窮層】が66.0%と、【周辺層】（35.7%）よりも30.3ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもへの支出〔習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる〕【生活困難度別】



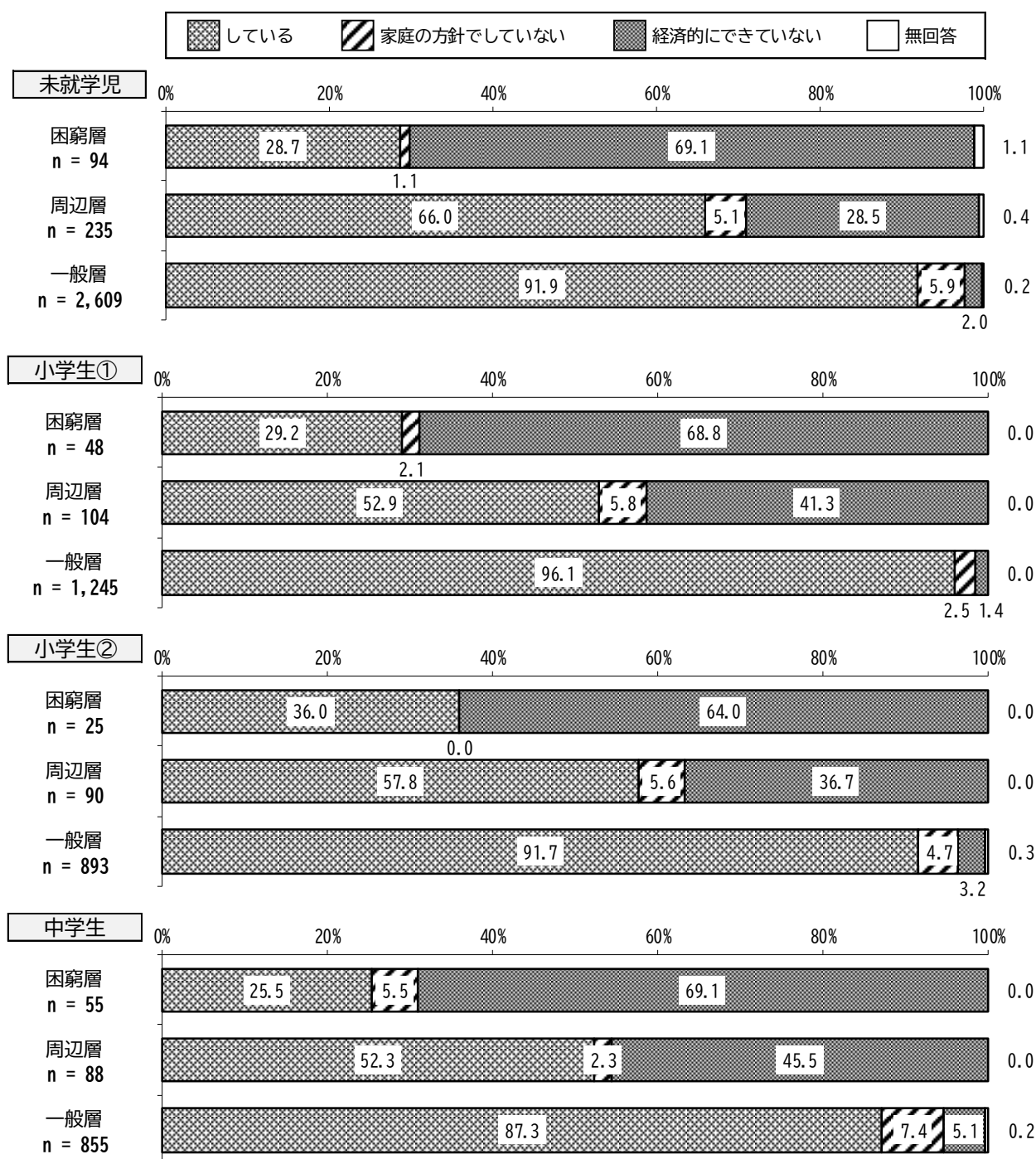
〔学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔小学生②〕の【困窮層】が72.0%と、【周辺層】（23.3%）よりも48.7ポイント高くなっている。

＜保護者＞子どもへの支出〔学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）〕【生活困難度別】



〔1年に1回くらい家族旅行に行く〕について、〔子どもの年齢層〕ごとに、生活困難度別にみると、「経済的にできていない」の割合はすべての年齢層で【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔未就学児〕の【困窮層】が69.1%と、【周辺層】（28.5%）よりも40.6ポイント高くなっている。

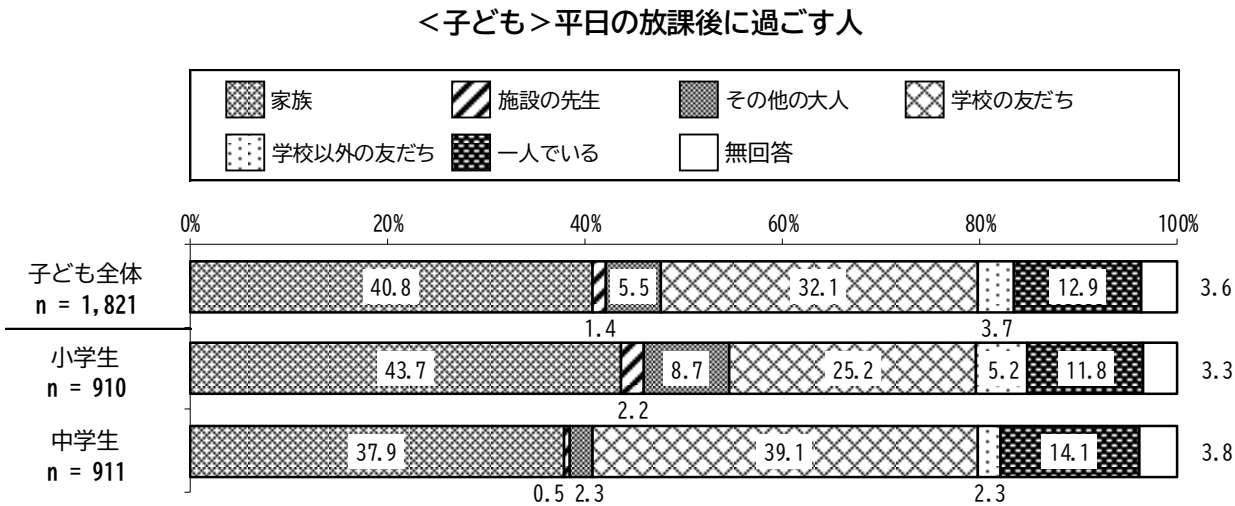
＜保護者＞子どもへの支出〔1年に1回くらい家族旅行に行く〕【生活困難度別】



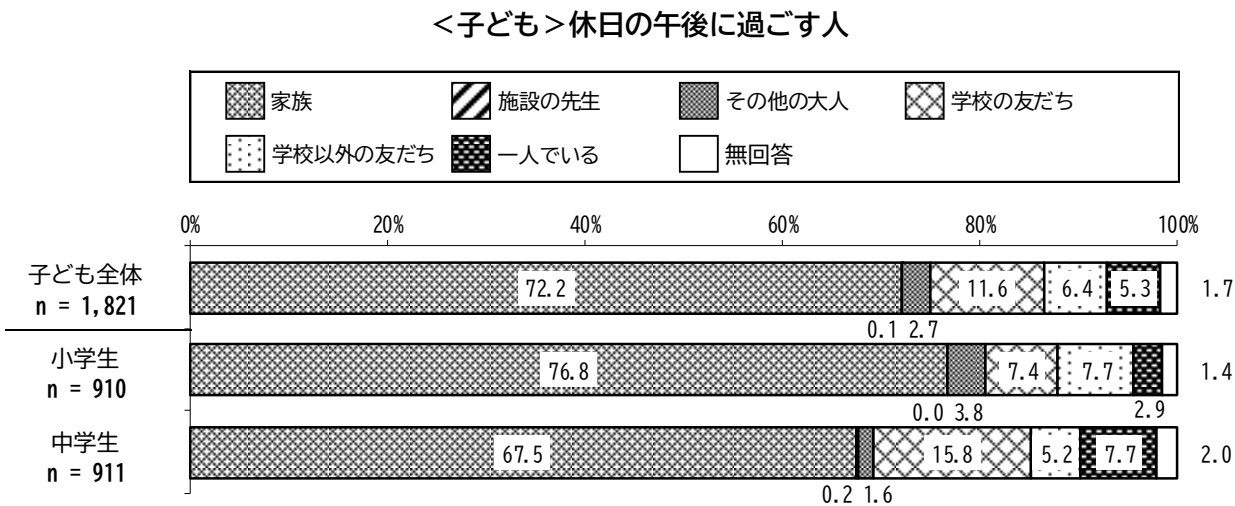
2. 児童・生徒の回答からみた子どもの状況について

(1) 平日の放課後・休日の午後に過ごす人

子ども全体では「家族」が40.8%で最も高く、次いで「学校の友だち」が32.1%となっている。
小学生、中学生別にみると、「学校の友だち」は【中学生】が39.1%と、【小学生】（25.2%）に比べ、13.9ポイント高くなっている。



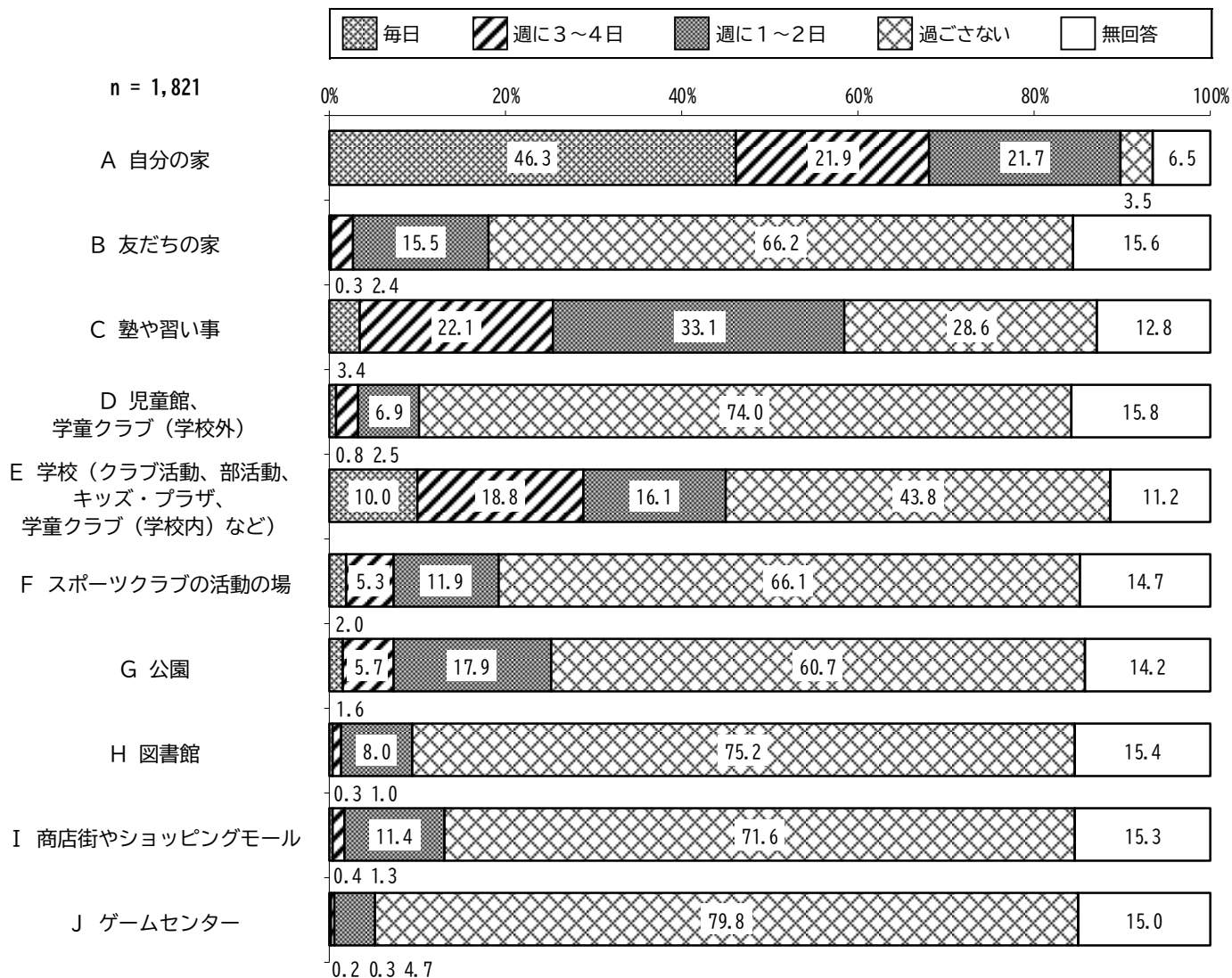
子ども全体では「家族」が72.2%で最も高くなっている。
小学生、中学生別にみると、「家族」は【小学生】が76.8%と、【中学生】（67.5%）に比べ、9.3ポイント高くなっている。



(2) 平日の放課後に過ごす場所

子ども全体で「毎日」は〔A 自分の家〕が46.3%で最も高くなっている。「週に3～4日」は〔C 塾や習い事〕が22.1%で最も高く、次いで〔A 自分の家〕が21.9%、〔E 学校（クラブ活動・部活動など）〕が18.8%となっている。一方、「過ごさない」は〔J ゲームセンター〕が79.8%、〔H 図書館〕が75.2%、〔D 児童館等〕が74.0%、〔I 商店街やショッピングモール〕が71.6%となっている。

<子ども全体>平日の放課後に過ごす場所

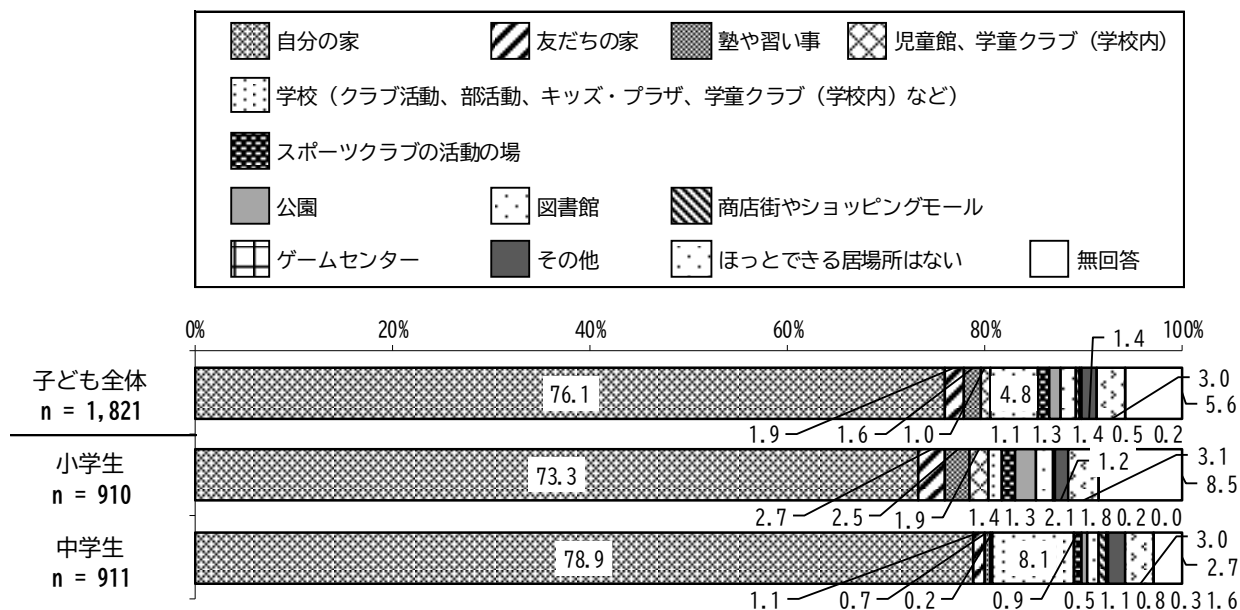


(3) 一番ほっとできる居場所

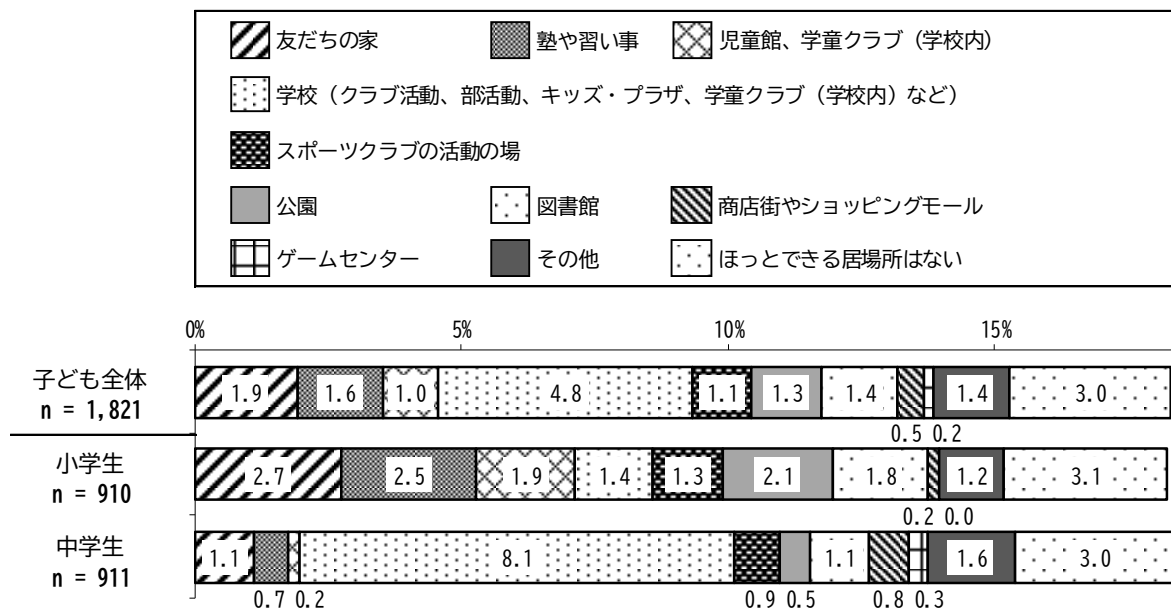
子ども全体では「自分の家」が76.1%となっている。

小学生、中学生別にみると、「学校（クラブ活動、部活動、キッズ・プラザ、学童クラブ（学校内）など）」は【中学生】が8.1%と、【小学生】（1.4%）に比べ、6.7ポイント高くなっている。

<子ども>一番ほっとできる居場所



<子ども>一番ほっとできる居場所（「自分の家」を除く）

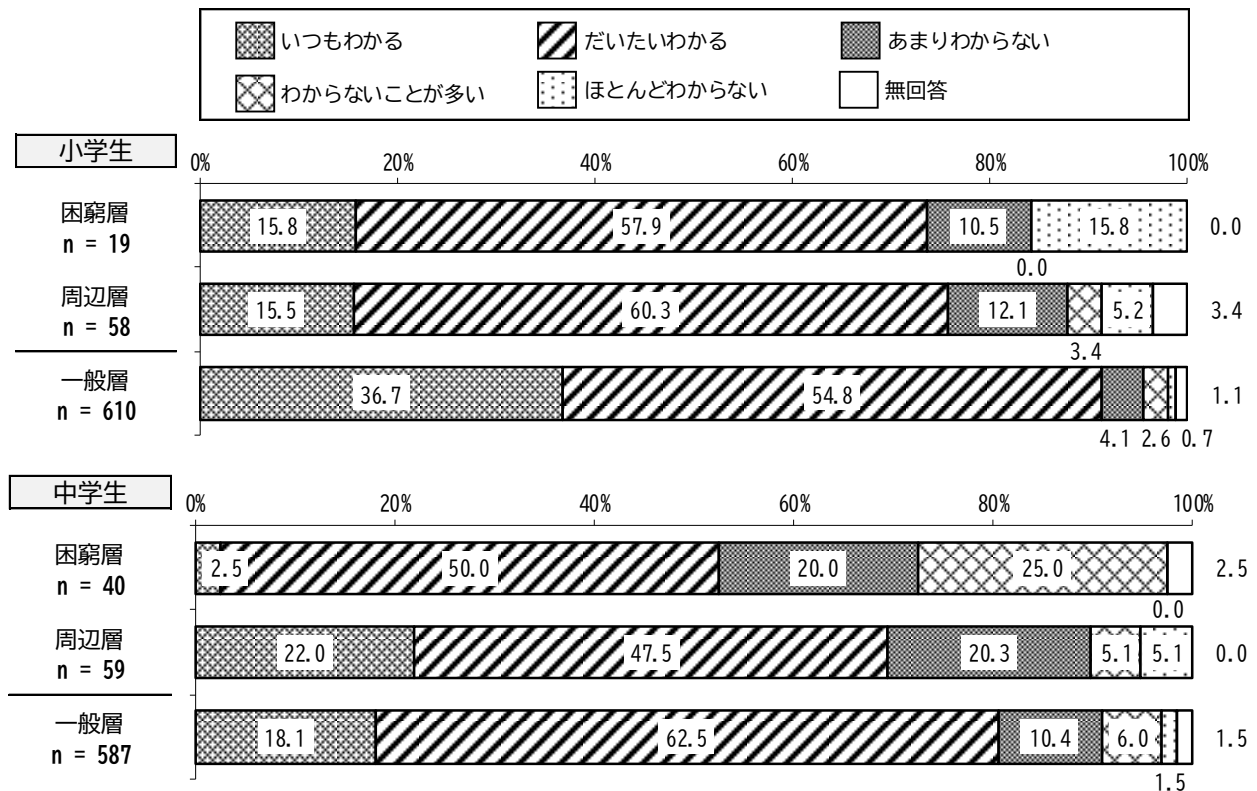


(4) 授業の理解度

※「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた値を『わかる』、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」と「あまりわからない」を合わせた値を『わからない』と表記する。

生活困難度別にみると、『わからない』の割合は小学生・中学生ともに【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔中学生〕の【困窮層】が25.0%と、【周辺層】(10.2%)よりも14.8ポイント高くなっている。

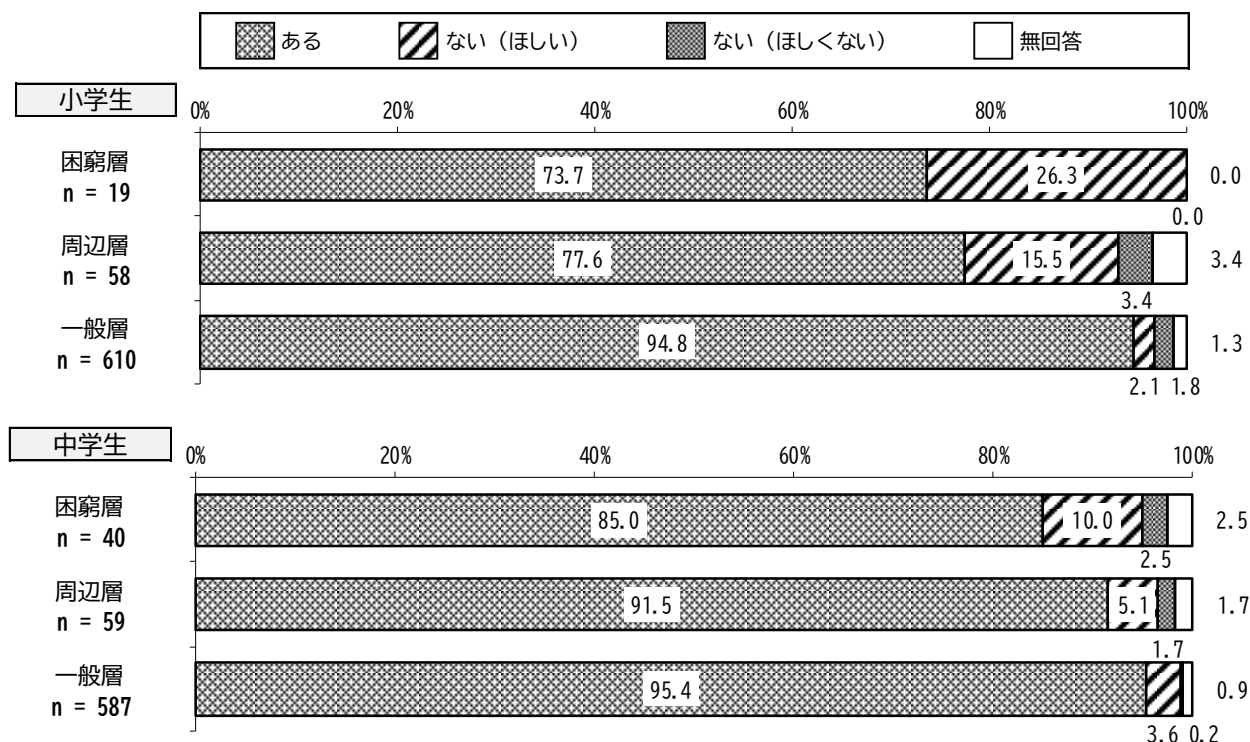
<子ども>授業の理解度【生活困難度別】



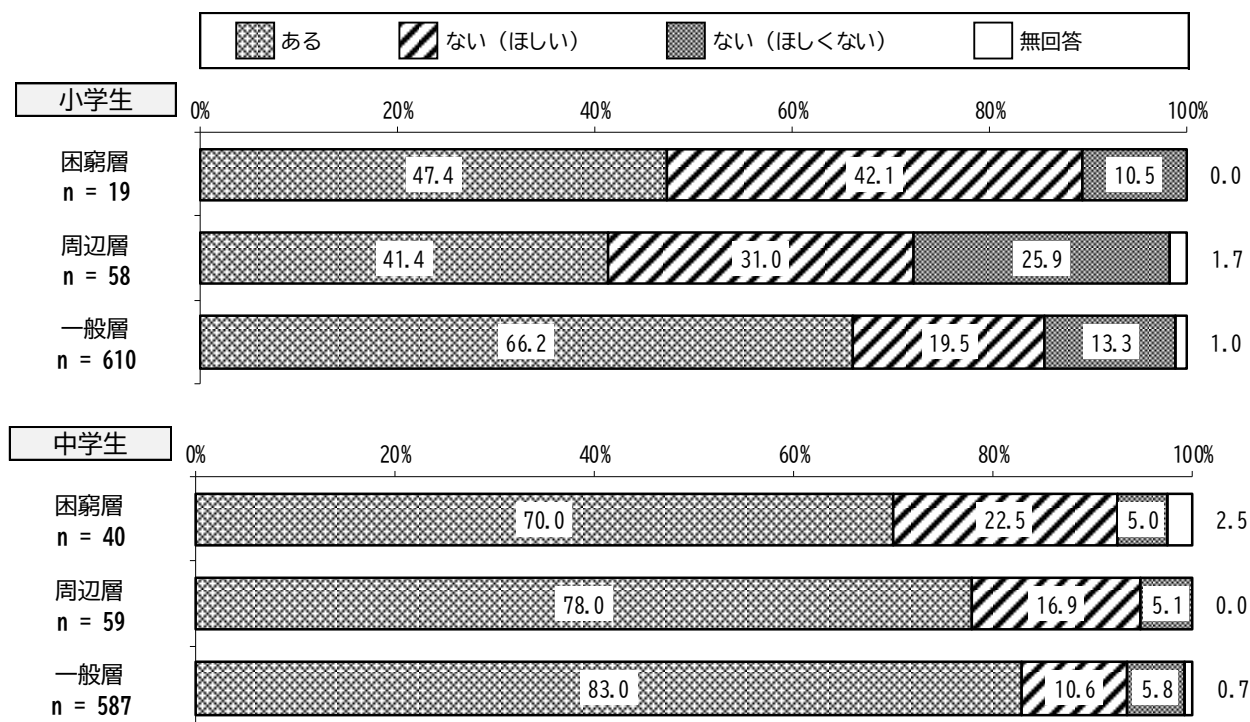
(5) 学習環境の欠如の状況

〔自宅で宿題をすることができる場所〕と〔自分専用の勉強机〕について、生活困難度別にみると、「ない（ほしい）」の割合は小学生・中学生ともに【困窮層】が【周辺層】に比べ、高くなっている。特に〔小学生〕の【困窮層】は〔自宅で宿題をすることができる場所〕が26.3%と、【周辺層】（15.5%）よりも10.8ポイント、〔小学生〕の【困窮層】は〔自分専用の勉強机〕が42.1%と、【周辺層】（31.0%）よりも11.1ポイント高くなっている。

<子ども>学習環境の欠如〔自宅で宿題をすることができる場所〕【生活困難度別】



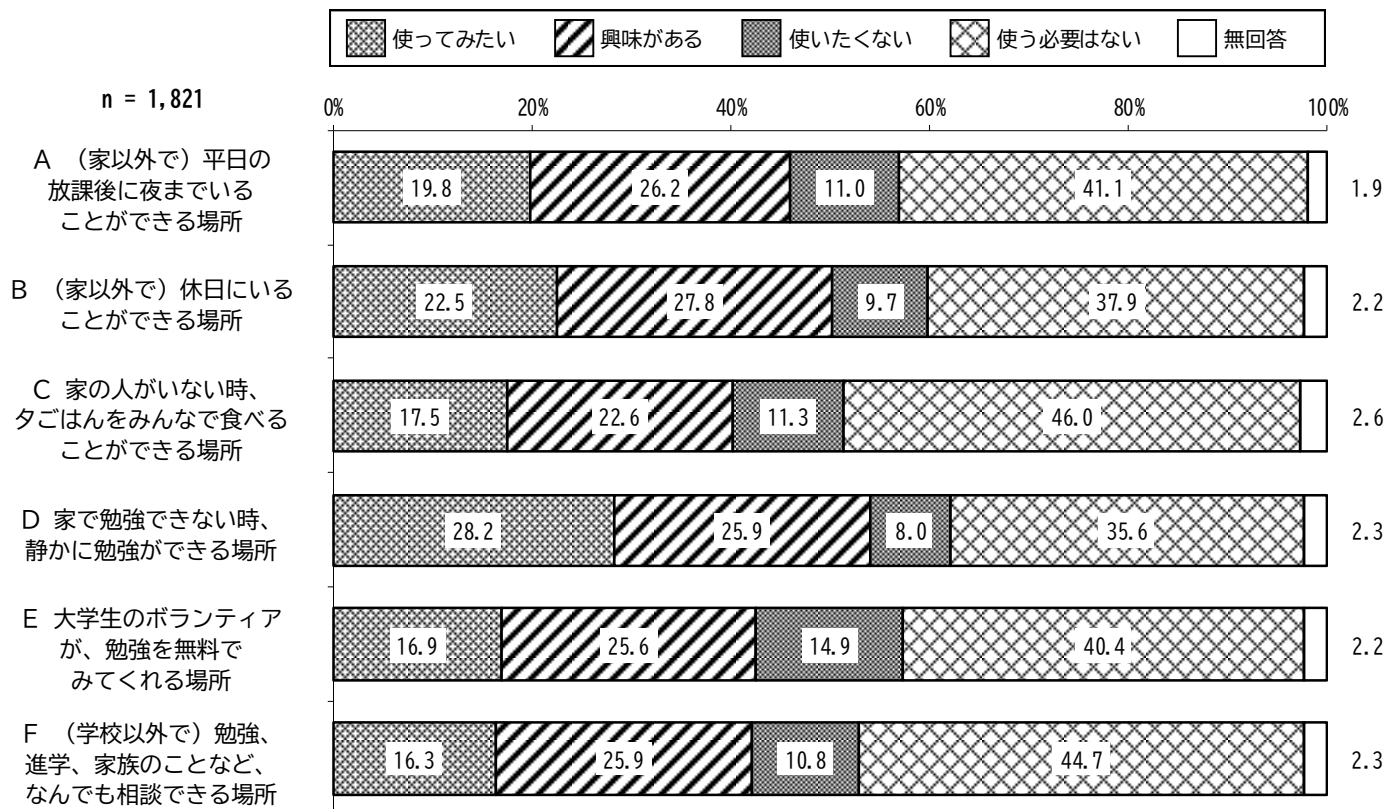
<子ども>学習環境の欠如〔自分専用の勉強机〕【生活困難度別】



(6) 使ってみたい場所

子ども全体で「使ってみたい」は〔D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所〕が28.2%、〔B（家以外で）休日にいることができる場所〕が22.5%となっている。また、いずれの項目も「興味がある」が22～28%となっている。

<子ども全体>使ってみたい場所



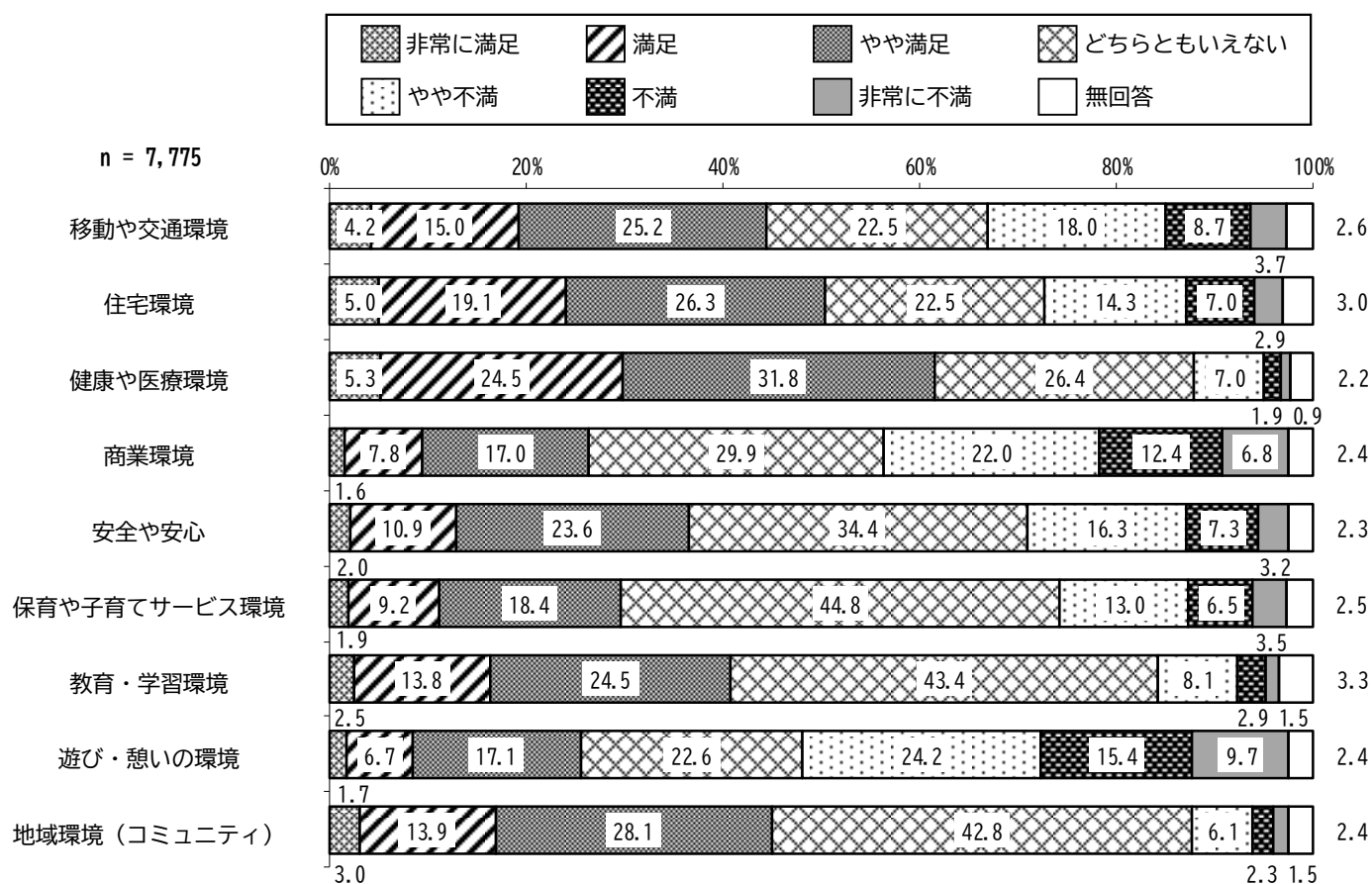
3. 中野区の環境について

※「非常に（とても）満足」と「満足」と「やや満足」を合わせた値を『満足層』、
「非常に（とても）不満」と「不満」と「やや不満」を合わせた値を『不満層』と表記する。

（１）保護者から見た中野区の環境について

保護者から見た中野区の環境（９テーマ、５７項目）について、《総合的な満足度》のみを比べると、全体で『満足層』は、[健康や医療環境について] が61.6%で最も高く、次いで[住宅環境について] が50.4%、[地域環境（コミュニティ）について] が45.0%、[移動や交通環境について] が44.4%となっている。一方、『不満層』は、[遊び・憩いの環境について] が49.3%で最も高く、次いで[商業環境について] が41.2%となっている。

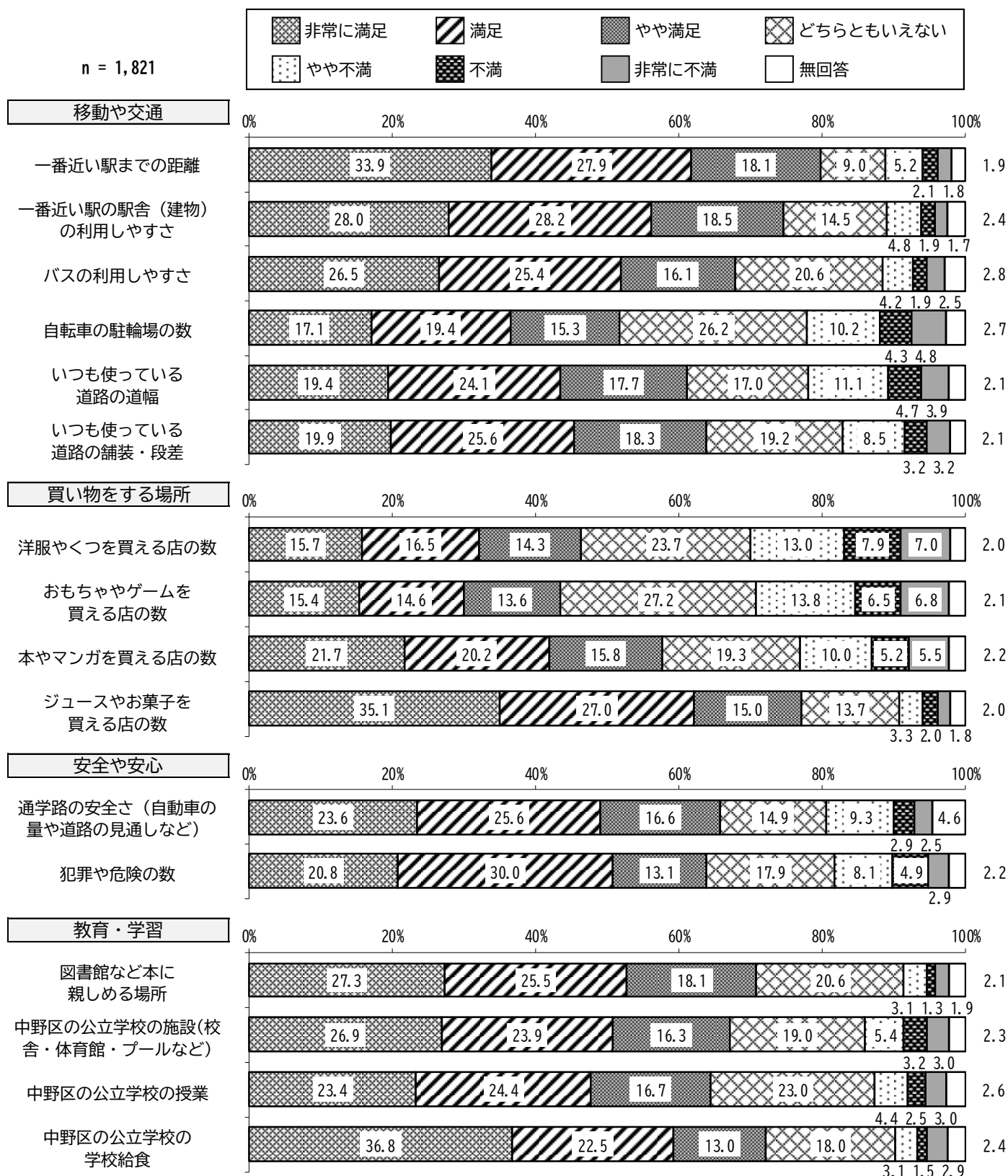
<保護者全体>保護者から見た中野区の環境 《総合的な満足度》のみ



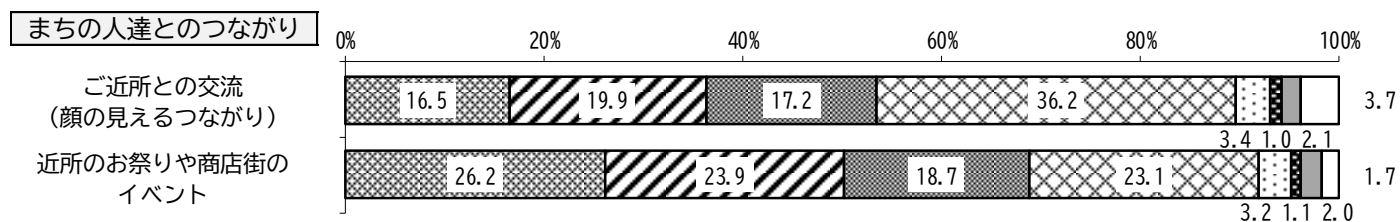
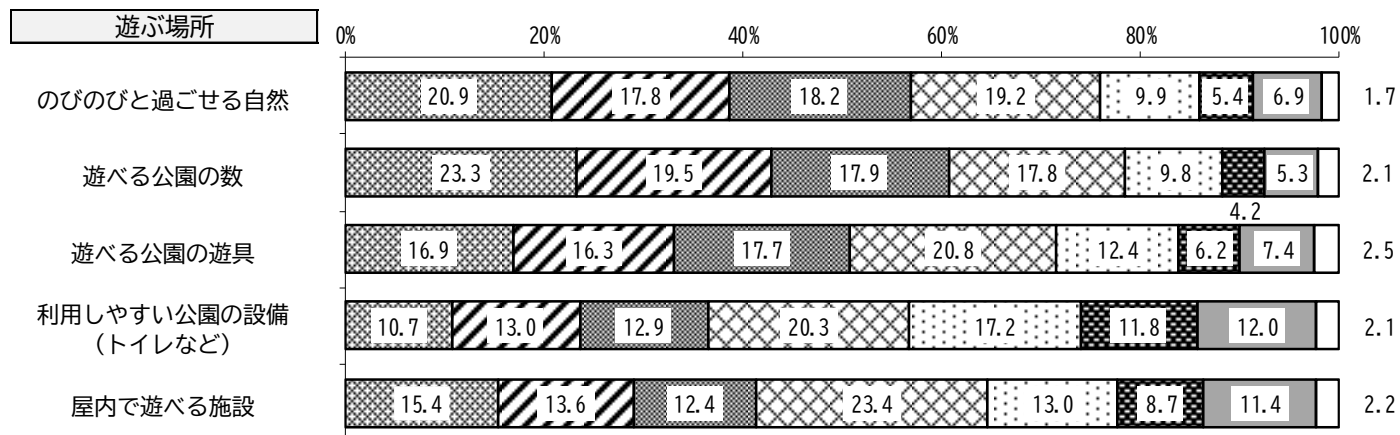
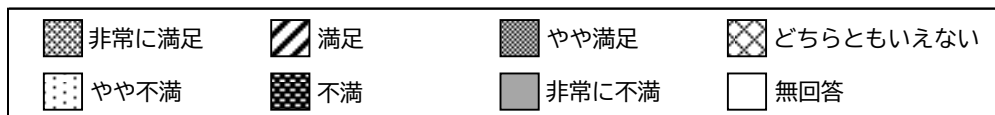
(2) 子どもから見た中野区的环境について

子どもから見た中野区的环境（6テーマ、23項目）について、子ども全体で『満足層』は、[一番近い駅までの距離]が79.9%で最も高く、次いで[ジュースやお菓子を買える店の数]が77.1%、[一番近い駅の駅舎（建物）の利用しやすさ]が74.7%、[中野区の公立学校の学校給食]が72.3%、[図書館など本に親しめる場所]が70.9%となっている。一方、『不満層』は、[利用しやすい公園の設備（トイレなど）]が41.0%で最も高く、次いで[屋内で遊べる施設]が33.1%となっている。

<子ども全体>子どもから見た中野区的环境



n = 1,821



(3) 中野区への定住意向

※「ぜひ住みたい」と「できるなら住みたい」を合わせた値を『住みたい』、同様に、「ずっと住みたい」と「できるなら住みたい」を合わせた値を『住みたい』と表記する。

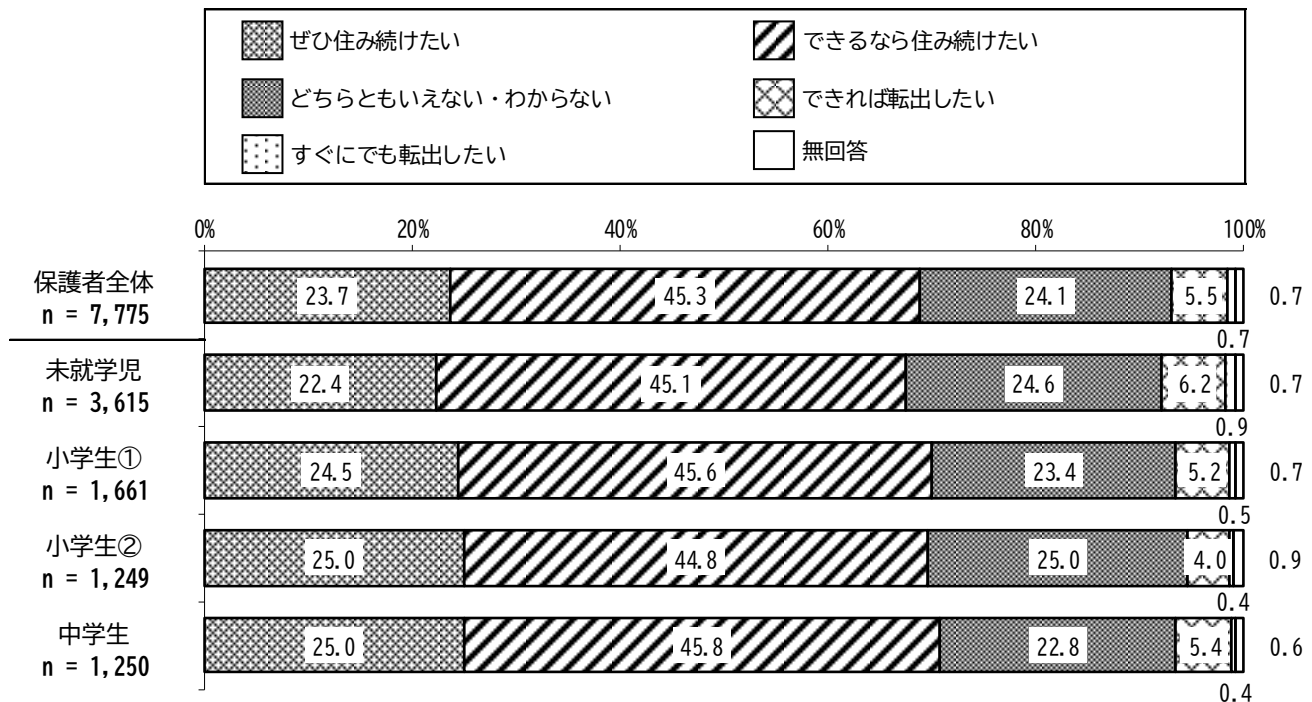
保護者全体では『住みたい』が69.0%となっている。

子どもの年齢層による大きな差はみられない。

子ども全体では『住みたい』が62.1%となっている。

小学生、中学生別にみると、『住みたい』は【小学生】が67.1%と、【中学生】(57.3%)に比べ、9.8ポイント高くなっている。

<保護者> 中野区への定住意向【子どもの年齢層別】



<子ども> 中野区への定住意向

